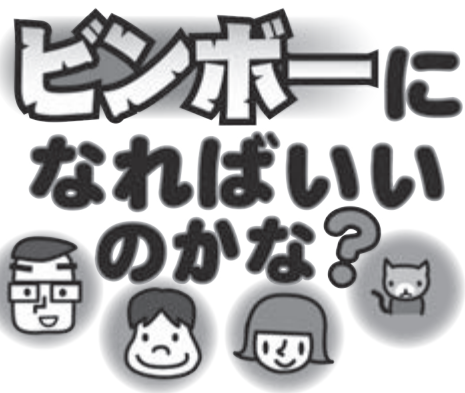


3月号と4月号で「馬鹿の稽古」について調査を行った調査隊。
 広井隊員は、朝のご挨拶の中で、意味をよく考え心を込めて「ふさわしくお使いください」とお唱えするようにしてから、その日一日、嫌なことに出会っても「自分に必要なことなんだよね」と前向きにその出来事について考え、落ち着いて取り組めるようになったと言います。



「えーと、貧乏の稽古というのは、貧乏になる稽古でいいのかな？ 例えば無人島生活をするとか、ホームレス生活をするとか？ でも、わざわざ貧乏になるのはハードル高いなあ」と広井隊員。
 有賀隊員も困惑気味です。「金剛さまは『貧乏人は嫌いだよ』（『恋愛の絆』544頁）ともおっしゃってるわ。金剛さまがおっしゃる貧乏と、私た

「なんとなく心に余裕がうまれたなあ」広井隊員は、以前より少しご機嫌な毎日を過ごしているようです。
 また、調査を進めていく中で、金剛さまが「馬鹿と貧乏と死の稽古」と何度も説かれていることに突き当たりました。しかし、「馬鹿」と同様に「貧乏」も「死」も、一体どういう稽古なのかイマイチ腑に落ちません。そこで調査隊は、続けて調査を開始することになりました。



ちが捉えている貧乏の意味はちよつと違うかもしれないわね……」
 調査隊はまず、「貧乏」の定義から考えることにしました。



所得の増加や裕福な暮らしを求める時代に
 なぜ貧乏の稽古なのでしょう？

特集 み教え調査隊



み教え調査隊とは

いつも耳にするけど、実はよく分からない——そんな「解脱用語」を調査し、教えの理解を深めるべく秘密裏に結成された特別調査チーム。毎回金剛さまの遺されたご指導を読み解き、時に取材に繰り出して、調査した結果を誌面に報告する。

金剛さまが嫌われた貧乏人とは？



広井学●そもそも「貧乏」って言葉はどういう意味があるのかな？

有賀冬子●辞書で意味を調べると、「財産や収入が少なくして生活が苦しいこと」ですって。なんとなく「貧乏」というと、狭い家に住んで、その日の食事のままならず、着の身着のままで、衣食住に事欠く生活をイメージするんだけど、現代の日本にはそこまで暮らしに困窮している人

は見当たらないわね。

白辺隊長●現代はそんな、極貧生活をしている人はほとんどいないのかもしれない。でもいくらがんばって働いても年収二〇〇万円を下回る「ワーキングプア」と呼ばれる、普通に生活はできているけれど、貯蓄はなかなかできず、贅沢な旅行などに行けないような人たちは増えているって言われているね。

広井●金剛さまはそんな一所懸命に働いてもお金のないような人をダメだっておっしゃられているの？

隊長●金剛さまがおっしゃられた「貧乏人は嫌いだよ」という言葉の奥には深い意味が込められていてね、金剛さまは詳しくはお説きにならないんだけど、側近の先生がこう易しく解説されているよ。

「貧乏人というのは一文なしのことではない。あっても感謝を出せない、気持ちの貧しい人のこと」

る良くない心根が「貧乏人根性」と言われるものですが、金剛さまはそれだけを言われているわけではありません。

「あっても感謝を出せない、気持ちの貧しい人」「出すのが嫌いな人」「遊びにはいくらでも出すけれど、いいことにお金を使えない人」と金剛さまのもとで学ばれていた側近の先生が説かれたように、むしろ余裕のある生活をしているにもかかわらず、「自分のことにしか使えない人」のことを指しています。さらに言えば、お金に留まらず、自分の物、自分の時間などを自分のためには使っても、他人のためには使わない人のことを総じて「貧乏人根性」と言われています。

そこには価値のある物やお金に対して「執着する心」と、どこまでも欲しいと「貪る心」があり、そういう人の中には自己中心的な心が隠れ

ています。また、欲が満たされなければ不平不満の生活に陥ってしまうもので、欲は際限がないために、そのような生き方では本当の安らぎは得られないのです。

ですから金剛さまは、大なり小なり自分の中にある「貧しいケチな心」を「人に与えられる豊かな心」に変えていくように、誰もが貧乏の稽古をすることが必要だと言われているのです。

有賀●なるほど。そういうえば最近、まさに貧乏人根性といえる某知事が話題になっていますね。充分な給料を頂いていながら、政治資金を自分のプライベートに近い買い物や旅行に使ってきたことがバレちゃって。

隊長●自分の懐を痛めずに人のお金をうまく使って「得をした！」と思うようなケチな心の人は、いずれ信用を失うものだよ。そういう姿は、

「貧乏人というのは出すのが嫌いな人や、遊びにはいくらでも出すけれど、いいことにお金を使えない人のこと」

このことから、金剛さまは、実際に財産や物がない暮らしをしている人を嫌われたのではなく、「貧乏人根性」ともいえる心の貧しさのことを戒められたことが分かるね。

具体的に「貧乏人根性」とは？

一般的には、生活が苦しい人がお金に余裕がないために、貧しい生活に心が折れて「どうせ何してもダメなんだ……」と、卑屈な心やお金を持っている人を妬んでひがみ心、また、生活の中で、物やお金を貪欲に求めて周りを気にせずガツガツすることや、人から何かをしてもらうことやおごつてもらうことを「当たり前」と思ってしまうことなど、これら貧しい生活状況から発生してく

人として恥ずかしいことだね。

広井●でも、自分自身が分かっているだけで、もしかしたら僕たちの中にもそういう貧乏人根性がどこかに隠れているのかもしれないですよ。

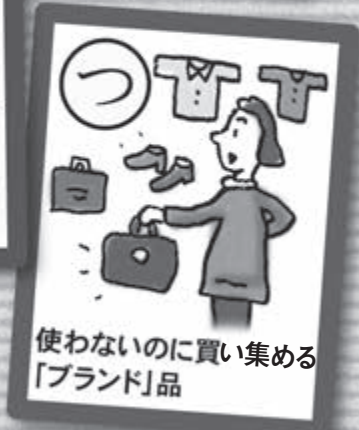
有賀●じゃあ、身近にある「貧乏人根性あるある」を探してみましよう！



貧乏人根性かるた

誰にもあるある!!

さがしてみよう!!



心当たりありませんか?
あなたのなかにある「貧乏人根性」
「あり得ない」なんて言ってるあなた、
無意識のうちに発揮してるかもしれませんよ...





して新しい機種が出れば今度はそちらが欲しくなり……そこに終わりはありません。しかも手に入れた瞬間は幸福感を覚えたとしても、また新しい機種が出れば、そんな幸福感は消しとんで、残るのは飢餓感のみ。まるで塩水を飲むように、いくら手に入れても「まだ足りない」「もっと欲しい」と欲望に苦しみ、心の安らぎが訪れることはありません。

貪る心をあおる社会構造

物を尊び、無駄なく最大限に活かして使う「もったいない」精神は、日本人ならではの美德でした。しかし、それも昔の話。今の私たちの暮らしは、その逆に「たくさん買って、

有賀●「貧乏人根性かたる」……なかなか胸にグサツとくるものがあるわ。お金やモノに執着したり、無闇に貪ってしまう心って案外、身近なものだったのね。

広井●でも、戦中戦後の物のない貧しい時代に比べたら、今の日本は格段に豊かだし、どこの家もある程度のお金は持っているよね。なのに、どうして「もっともっと」と貪る気持ちかわいてしまうのかな？

有賀●確かに不思議よね。

隊長●もしかしたら、今の豊かな社会の仕組みに、私たちの貪る心をあおるものがあるのかもしれないな。

たくさん捨てる」使い捨て文化のもとに成り立っています。

日本が大きく変わったのは戦後の高度経済成長期、「大量生産・大量消費」という社会システムが導入されたことでした。市場にはたくさんの安価な商品が出回り、人々の所得も着実に増え、誰もが欲しいものを簡単に手に入れられる喜びを享受できるようになりました。そうした豊かさの実感の中で生まれたのが「お金やモノをたくさん持つことが幸福」とする価値観でした。

時代は変わって、バブル崩壊以降、不景気が続き、昔のような収入を期待できない時代の中、かつてのように誰もが欲しいものを手に入れることが難しいのが現状です。その一方で社会システムに変化はなく、魅力的な新製品は次々と開発され、またインターネットの普及で商品の購入がより手軽にできるようになりました

た。私たちの購買意欲を絶えず刺激して物を買わせようとする社会の誘惑が「欲しくても手に入らない」という飢餓感をあおります。そうした空気が、欲しいと決めたものは手に入れないと気が済まないような貪る心を増幅させ、知らず知らずのうちに貧乏人根性に陥りやすくしているといえます。

そして、たくさんのお金やモノがなければ幸せにならないのならば、それが叶えられない今は、多くの人が不幸かもしれません。

しかしながら、そもそも物質的な豊かさの先に幸福があるという価値観は正しかったのか、お金や物を手に入れることで、本当に人は幸せになれるのでしょうか。

たとえば、スマートフォンの新機種が出るたびに買い替える人がいますが、声高に宣伝される便利な機能に惹かれて手に入れても、しばらく

「たとえ金貨を雨と降らすも、人間の欲は際限がない。欲も限度に満足せば仮に罪を以て論ずるも微罪でありましょう。こう考え及ぶ時、右手の貪欲も、気前よく左手から時かば、せめて罪滅ぼしにならぬとは限りませぬ。(中略)心に足るを知るは最上の財宝である」(『ご聖訓』第七巻13頁)

自らの欲望に踊らされることなく、それをコントロールする生活、「足るを知る」生活こそが、金剛さまの説かれた「貧乏の稽古」の第一歩です。そこに私たちが欲望のスパイラルから解放され、本当の幸せを知る鍵があります。

広井●物を無駄にすることを絶対に許されなかった金剛さまが、今の僕らの姿を「こんなにになったらどう思われるだろう……」。

隊長●こんな生き方をすれば行き詰

まらないはずがないんだ。金剛さまも繰り返しておっしゃられたように、「金を粗末にすれば金で、物を粗末にすれば物で困ったり悲しんだりする時が来る」(『金剛伝』第二巻321頁)のが法則だからね。

有賀●うーん、ますます貧乏の稽古の必要性を感じますね。

広井●特に今の時代こそ必要だと思っうね。でも「足るを知る」ことは大切だけど、金剛さまはお金や物を持つこと自体を悪いとはおっしゃられていませんよね。

有賀●先ほどのご聖訓にも「右手の貪欲も、気前よく左手から時かば、せめて罪滅ぼしにならぬとは限りませぬ」とあったけど、要はどう使うかが大事ってことなのかしら？

隊長●そのあたりに金剛さまの説かれた「貧乏の稽古」のもっと深い意味がありそうだな。引き続き調査を続けてみよう！ 【八月号へ続く】